

平成25年度 食に関するアンケート調査結果について

1 実施時期

平成25年11月

2 調査対象

学校給食を実施している公立・国立小中学校および特別支援学校において、各学年から抽出した1クラスの児童生徒

※ 特別支援学校においては、回答可能な場合のみ

3 調査人数、学校数

【調査人数】

小学生 25,040人(小学部を含む)

中学生 6,180人(中学部を含む)

合計 31,220人

【調査学校】

小学校 201校

中学校 77校

特別支援学校 12校

合計 290校

4 結果の概要

○「学校給食がおいしい」は増加 ……89.9%(H24)→90.0%(H25)

小学校は91.8%、中学校では82.2%、特別支援学校では95.4%の児童生徒が学校給食をおいしいと答えた。

○学校給食が好きな理由に「栄養バランスを考えた食事」が増加 ……51.6%(H24)→53.6%(H25)

小学校では「学校給食が好き」な割合は昨年度よりやや減少したが、中学校では大幅に増加し、その理由に、給食の栄養バランスをあげる児童生徒が増加した。

○給食を「残さない」児童生徒は83.7%(H25)

「いつも残す」「ときどき残す」児童生徒では、「おかず」を残すことが最も多く、ついで「主食」「牛乳」の順であった。しかし小学校と中学校ではその割合に違いがあった。

○嫌いなものが出た時「学校では食べる」が増加 ……19.4%(H24)→20.2%(H25)

嫌いなものが出た時、「我慢して食べる」児童生徒は減少したが、「学校では食べるが家では食べない」は増加した。また、望ましい食習慣を問う「食事に気をつけている事」では、どの項目も「はい」と答える児童生徒が増加した。

○「朝ごはんを毎日食べる」が2年連続減少 ……88.1%(H24)→86.7%(H25)

「朝ごはんを毎日食べる」は平成23年度の90.7%から2年連続減少した。

○朝ごはんに「みそ汁(スープ)を摂取する」が減少 ……50.3%(H24)→49.3%(H25)

朝ごはんに主食だけ(「ごはん(パン、めん)だけ」)の児童生徒が増え、みそ汁(スープ)の付いた朝ごはんを食べる児童生徒が減少した。

○寝る時間は遅くなる傾向

昨年度より遅い時間帯に寝る児童生徒が増加し、一方、早い時間帯に起きる児童生徒が増加した。

5 今後の取組

○地場産食材を使った「和食給食」の推進

石塚左玄の「一物全体食」などの教えを生かし、ご飯とみそ汁の「一汁三菜」を基本とする地場産物を取り入れた和食給食を推進します。さらに、学校給食が和食文化の継承となるよう、子供が喜ぶおいしい献立の開発や、教職員対象に研修会を開催します。

○体力向上に向けた食育の推進

カルシウムや鉄分摂取の大切さを指導するための献立の実施や、特に中学校においては、運動をするときの食事の取り方等の指導を充実し、体力向上に向けた食育を推進します。

○家庭・地域と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」の推進。

就寝時刻が遅くなり、毎日朝ごはんを食べる児童生徒の減少傾向から、家庭・地域と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」運動をさらに推進します。特に、朝食については、栄養バランスのとれた和食の良さなどを通して、児童生徒、家庭・地域に啓発します。